



周南地域

- 下松市
- 光市
- 周南市



地域とともにある学校

くだまつし

コミュニティ・スクール



下松市教育委員会 学校教育課

平成28年4月から市内の小中学校すべてがコミュニティ・スクールとしてスタート!

★ コミュニティ・スクールとは?

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

学校と保護者や地域の皆さんが目標や課題を共有し、一体となって地域の子どもたちを育んでいくことは、子どもたちの豊かな育ちを確保し、そこに関わる大人たちの成長にもつながっていきます。

さらに、地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てていくことにもなります。

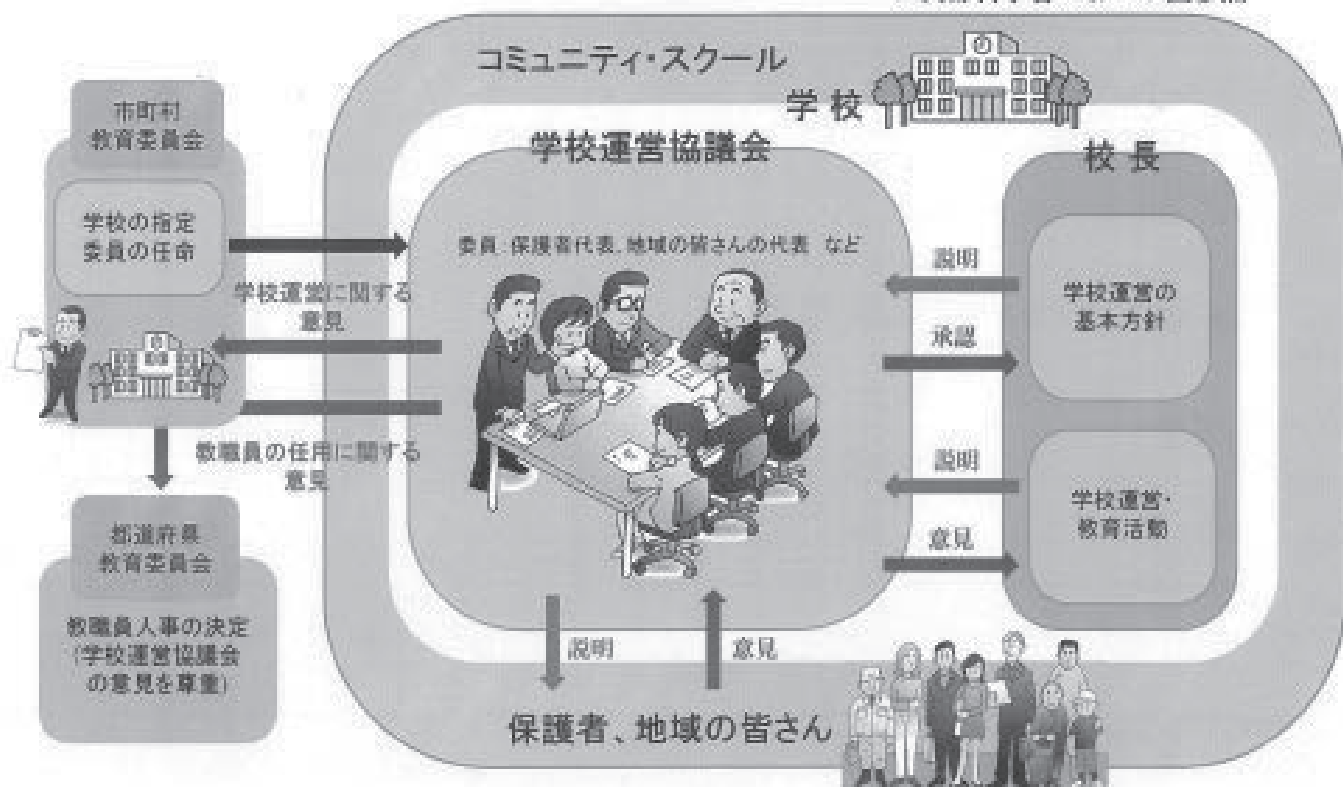
☆ 学校運営協議会

コミュニティ・スクールには保護者や地域の皆さんなどから構成される「学校運営協議会」が設置されます。

学校運営協議会は、保護者や地域の皆さんの声を学校運営に反映されやすくする仕組みのことで、ここでは、一定の権限と責任をもった委員が、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりすることを通じて、学校の様々な課題解決に参画していきます。

コミュニティ・スクールのイメージ

※文部科学省のイメージ図参照



★ くだまつのコミュニティ・スクール

市内の全小中学校十一校が、平成二十八年四月から「コミュニティ・スクール」としてスタートしました。

これまでも保護者や地域の皆さんのご協力を得て、学校行事への参加、ゲストティーチャーとしての授業参画、登下校時の見守り活動、校舎内外の環境整備等、学校の教育活動の充実や児童生徒の安全・安心に関する取組を進めてきました。

また、学校評議員の方や保護者の皆さんの意見を積極的に取り入れ、学校運営や教育活動の充実にも努めてきました。

このような取組を基に、地域にある豊かな教育資源や人材のさらなる活用を進め、今の活動をより組織的・継続的に行える体制として整えるために、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入しました。

市がめざすコミュニティ・スクールの姿は、学校教育目標の実現に向け、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら、知恵と力を結集して、地域の将来を担う子どもの豊かな育ちを応援する「地域に開かれた信頼される学校」です。目標達成に向け、「学校運営の充実」「学校支援の拡充」「地域貢献の推進」「小中連携の深化」の四本柱を設定しました。



下松小学校：
理科ボランティア



中村小学校：
家庭科ボランティア



花岡小学校：防犯ボランティアの紹介



東陽小学校：
クリーン作戦



米川小学校：地域のお祭りに参加



下松中学校：
公民館まつりでのボランティア

学校支援
の拡充

地域貢献
の推進

学校運営
の充実

小中連携
の深化



豊井小学校：学校評議員による授業参観



末武中学校：第1回学校運営協議会



久保小学校：第1回学校運営協議会



久保中学校区：公民館と地域合同による「防災キャンプ」



公集小学校、末武中学校：小学生と陸上競技部の中学生との交流

光市が進めるコミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールとは、『子どもとかかわり、見守り、支え、応援していく、地域と連携した学校づくり』のシステムです。

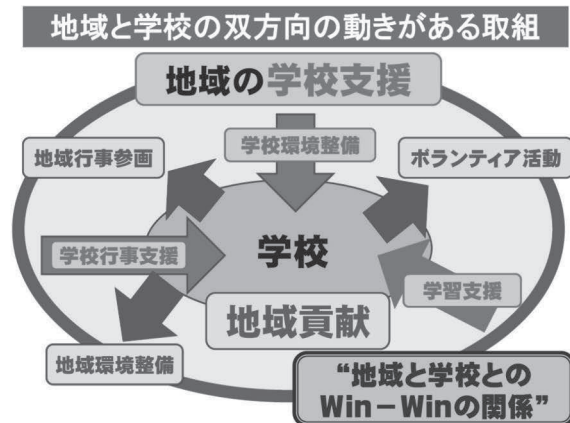
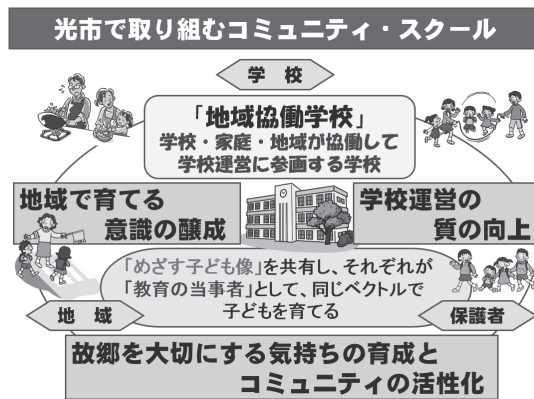
光市では、学校・家庭・地域が「めざす子ども像」を共有し、それぞれが「教育の当事者」として、学校運営に参画していくことを目的としています。

① 基本方針

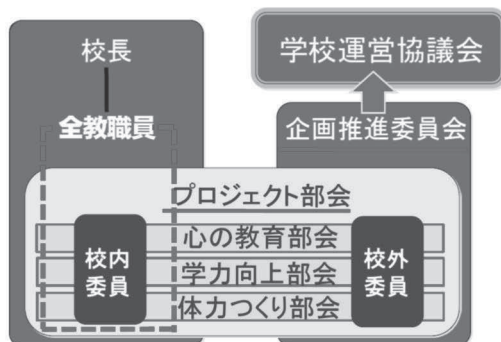
【主なねらい】

- ① 学校運営の質の向上
- ② 地域の子どもはみんなで育てるという意識の醸成
- ③ 故郷を大切にする気持ちの育成とコミュニティの活性化

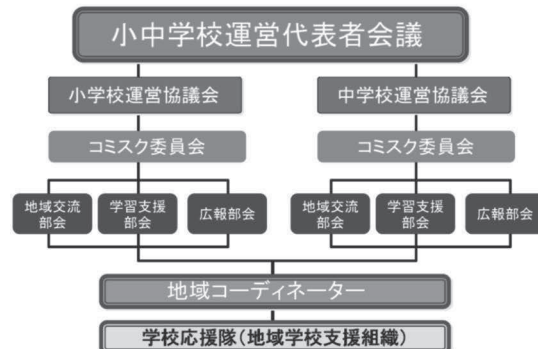
② 推進体制……地域の状況や子どもの実態を踏まえた特色ある取組



全教職員で推進する校内組織づくり



小中連携を生かした学校運営協議会の運営



③ 市町教育委員会の取組……光市のコミュニティ・スクールの水準の維持・向上

◎光市コミュニティ・スクール研究協議会

情報交換、研究協議等を通して、各校の取組の質を高めるとともに光市としての方向性を確認

◎山口CSコンダクターの配置

コミュニティ・スクールの取組の充実や水準の向上、合同学校運営協議会の推進による小中連携の取組の充実等を図るための訪問指導・連携支援

小中9年間の学びや育ちを、学校・家庭・地域全体で見守り育てる取組を推進するための支援

やまぐち型地域連携教育の推進（基本方針と推進体制）

「地域と“共に”ある学校」づくりを進める周南市のコミュニティ・スクール

周南市では、コミュニティ・スクールの取組により、学校と地域の横のつながり、小学校と中学校という縦のつながりをつむぎあわせることで、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって、9年間の義務教育を通して子供たちを育む「地域と共にある学校」づくりを目指している。

期待する効果

- 学校運営の質の向上と特色ある教育の推進
- 中学校区全体で学校と地域が協働して子供たちを育てる連携教育の充実
- 学校・家庭・地域が一体となって子供たちを育てる教育的風土の生成

市内「地域と“共に”ある学校」づくりを推進する

周南市学校運営協議会会長会議

周南市コミュニティ・スクール推進協議会

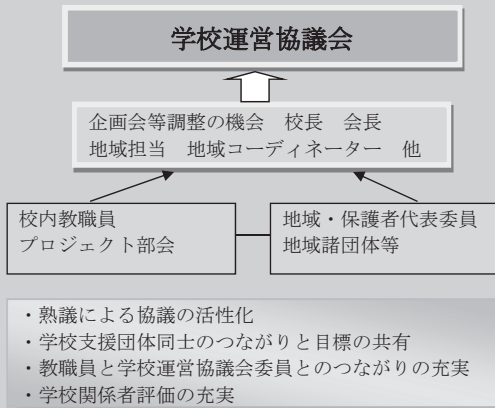
周南市地域コーディネーター研修会

周南市小中連携教育推進協議会

「地域と“共に”ある学校」づくりを推進する要素と取組で生まれる効果

■ 学校運営協議会の充実

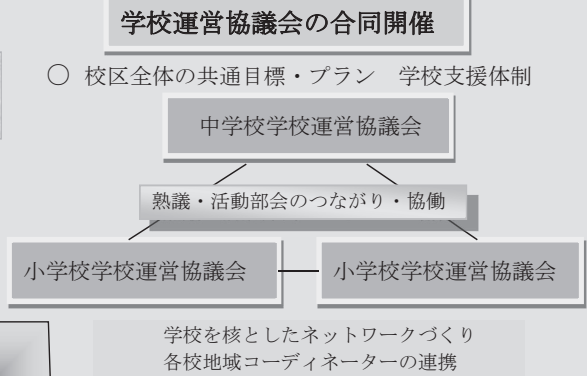
《学校運営の質の向上と特色ある教育》



学校運営
学校支援
地域貢献

■ 学校（CS）を核とした地域のつながり

《学校と地域が協働する教育環境》



■ 学校と学校のつながり

《9年間の育ちの連続性を効果的に生かした教育》

- 共通の重点目標等による学校評価

中3 (9)	
中2 (8)	
中1 (7)	
小6	小6
小5	小5
小4	小4
小3	小3
小2	小2
小1	小1

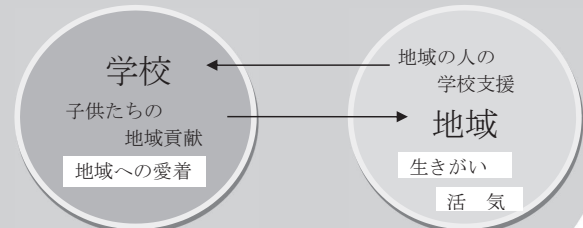
なめらかな接続と学力向上方策
相互交流の実践（授業 研修 行事）
連携したカリキュラム等の作成
（相互連携）

小小連携 幼保小中高連携等のつながりへの発展

■ 学校支援と地域貢献から生まれる効果

《学校・家庭・地域が一体となって

子供たちを育てる教育的風土》



子供たちの自主性・社会性や自己肯定感の高まり
子供たちの地域の担い手意識の高まり
家庭・地域教育の主体者意識と地域の絆の深まり

地域と“共に”ある学校づくり 推進のポイント

学校運営協議会の充実

《学校運営の質の向上と特色ある教育》

- 協議の司会は会長が行い、委員全員の発言時間が確保されている。
- 学校運営協議会の協議の活性化にむけて協議題や協議形式を工夫している。
- 学校運営協議会委員が、学校での子供たちの現状を把握する機会を設けている。
- 学校運営協議会の開催前に企画推進委員会等を開いて、事前に協議している。
- 校内プロジェクト部会等を設け、学校運営協議会と教職員が繋がる組織になっている。
- 学校運営協議会委員に地域コーディネーターを加えている。
- 学校運営協議会を中心に学校支援ボランティア等がつながるネットワークができていて、児童生徒の育成目標を共有している。
- 学校に地域の人が集まる場（CS ルーム）や機会を工夫している。
- 学校運営協議会委員を地域や保護者に紹介する機会や手段を設けている。
- CS だよりを定期的に地域に発信している。

学校と学校をつながり

《9年間の育ちの連続性を

効果的に生かした教育》

- 校区内の小中連携教育の推進に向けた組織が機能している。（校区校長連絡会含む）
- 小中学校間での相互授業参観の機会を全教員が参加できるよう計画している。
- 出前・交流授業を計画的に実施している。
- 小中合同研修会が連携効果を高めるため、内容を工夫し計画的に実施している。
- 小中の発達特性や相互の教育課程を理解し、互いのカリキュラムの連続性を意識した指導に生かしている。
- 研究授業を小中合同で行ったり、地域の人を交えて実施したりして、多様な意見を生かす工夫をしている。
- なめらかな接続を意識した小6・中1等の合同の教育活動や、小6の中学校での授業体験を実施している。
- 小中合同の行事に、地域の方や施設の協力を得て、実施している。
- 学校評価の重点目標等を共通にするなど、連携の効果を PDCA サイクルを活用して高めようとしている。

学校を核とした地域のつながり

《学校運営協議会の合同開催による協働》

- 校区小中 CS の学校運営協議会の合同開催を工夫して実施している。
- 中学校区全体で育てる目標、プラン等を作成し、地域と共に協働実践している。
- 学校運営協議会合同開催は地域代表や保護者が当事者意識がもてるように運営を工夫している。（熟議形式・時間確保・司会他）
- 各校の学校運営協議会の部会同士のつながりを考えて組織的な工夫をしている。
- 学校運営協議会委員が小中連携研修会に参加し学校と地域の連携を深めている。
- 地域の様々な団体・組織・グループ等と連携できるネットワークづくりが進んでいる。
- 公民館等の社会教育機関との連携が効果的に進んでいる。
- 合同開催により各小学校区地区コミュニティ同士の人材の交流や地域コーディネーターの情報交換等ができています。
- 地域の文化財や特色ある産業等を子供たちが学ぶ機会や手段を検討している。

学校支援と地域貢献から生まれる効果

《学校・家庭・地域が一体となって

子供たちを育てる教育的風土》

- 地域の人の学校支援や学校での活動参加が盛んになり、様々な交流が生まれている。
- 地域の人が得意な分野を子供たちに教えることで、新たな学びや生きがいが生まれている。
- 子供たちが地域の行事にボランティアや手伝いとして自主的に参加している。
- 地域行事に参加する子供たちが増えて、地域の活気を生み出している。
- 地域で活動する子供たちを地域の人が指導し、育てようという気風がある。
- 地域の人が主体的に行う学校支援活動が地域に定着している。
- 子供たちが地域の将来について考えたり、発表したりする機会がある。
- 子供たちが地域の産業を生かした教育活動に取り組むため、地域の専門家が学びの支援者となっている。
- 子どもを中心に据えて、保護者や地域の人との世代を超えた交流が生まれている。

学校運営に係る取組

下松市立久保小学校



学校運営協議会で、「久保っ子あいさつ達人をめざして」のテーマで熟議を行い、学校・家庭・地域の関係者が、それぞれの立場で「あいさつほめほめプラン」を実践していくことになった。

下松市立米川小学校



学校運営協議会委員に避難訓練を参観していただき、事後の検討会で意見交換を行った。

下松市立東陽小学校



教職員のプロジェクト会議に地域の方が加わり、1学期の進捗状況を確認するとともに、2学期の取組について話し合った。

光市立島田小学校



ユニット型研修を3回実施し、地域の方に本校の研修の取組を参観いただいた。協議会で忌憚のない御意見がうかがえた。

光市立周防小学校



「地域をあげて子どもを育てるための具体的なプラン作り」を協議議題にし、地域、保護者、教職員がミニ熟議を行った。

光市立浅江中学校



コミュニティ・スクールのプロジェクト部会、企画推進委員会のメンバーとして、本年度から生徒会の参画が始まった。

周南市立夜市小学校



学校運営協議会委員と児童が給食を一緒に食べ、その後、健やかな体と心を育む「食育」をテーマに全教職員と熟議した。

周南市立和田小学校



学校運営協議会とは別に、月一回の企画推進会議を開催し、活動の進捗状況の確認と今後の方向性の決定を行っている。

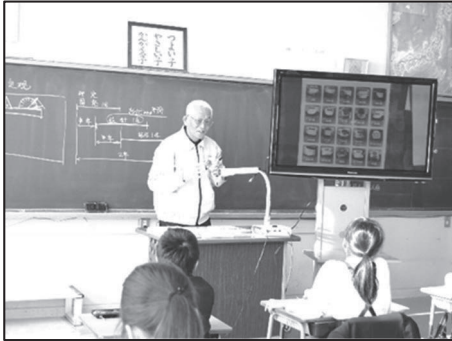
周南市立秋月中学校



秋月小・中学校全教職員と学校運営協議会委員が出席して、「学習指導」「生徒指導」「環境ボランティア」の部会に分かれて情報交換や協議を行った。

学校支援に係る取組

下松市立豊井小学校



3年社会科では、地域の工場で新幹線づくりに関わった人から話を聞き、働く人と自分たちの生活について学習を深めた。

下松市立中村小学校



子どもたちの登下校を見守ってくださっているガードボランティアと見守り隊の方の顔写真を入れた「中村小安心・安全マップ」を作成し、子どもたちの感謝の気持ちを高めた。

光市立室積小学校



伊保木地区の方や保護者のサポートにより、学校ではなかなか体験できない稲刈り体験の場を設定することができた。

光市立上島田小学校



学校の伝統行事「すもう大会」では、行司や審判を地域の方や保護者が担当し、児童の真剣勝負を見守っていただいた。

光市立浅江小学校



保護者が学習プリントや家庭への配付プリントの印刷をしている。事務的な仕事が減り、休み時間等で教師が子ども達と向き合う時間が増え、効果を上げている。

光市立光井小学校



5年生が、総合的な学習の時間で「米づくり」を行っており、しろかきの代わりに「どろんこあそび」を行った。

光市立三井小学校



地域の方をゲストティーチャーに、ふれあい活動を行った。1、2年生は昔遊び、3年生は、釘打ち体験、4年生は、点字体験、5年生はミシンを使って、6年生は、絵手紙をそれぞれ実施した。

光市立塩田小学校



夏休みのスキルアップ講座では、地域の方をゲストティーチャーに迎え、教えていただきながら凧とペットボトル風車を作った。

光市立東荷小学校



郷土料理教室では、寿クラブを講師に、小学生、園児、保護者、地域の方が参加して、なすそうめんと押し寿司作りを楽しんだ。

学校支援に係る取組

光市立島田中学校



「花の日」に地域住民、生徒が持ち寄った花を、CS学校支援ボランティアバンクの方十数人が生け、校内を飾った。

周南市立今宿小学校



「今宿小ペンキ塗り大会～キレイな学校をみんなで創ろう!～」を開催した。おやじの会の呼びかけで、地域の方と子どもたちが一緒に活動した。

周南市立湯野小学校



「ふるさと探訪」という全校遠足で、地域の方と自然や歴史にふれながら湯野の町を探索して歩いた。

周南市立須磨小学校



クラブ活動「川遊び」では、学校運営協議会委員さんに「笹舟流し」や「水切り（石投げ）」を教えていただき楽しく活動することができた。

周南市立沼城小学校



地域の老人会の方の協力のもと、5年生が田植えから稲刈りまで行い、米作りを体験することができた。

周南市立周陽小学校



児童企画「きれいきれい集会」では、保護者や地域の協力のもと、縦割り班でクイズを交えながら、道路や公園などの環境美化に取り組んだ。

周南市立秋月小学校



5年生の家庭科のナップサック作りで、ミシンの使い方を地域の方から丁寧に教えていただき、立派なナップサックを作ることができた。

周南市立福川小学校



5年生が、本校設置のビオトープで環境学習を行い、環境パートナーの方から指導を受けながら、生命の尊さを学んだ。

周南市立高水小学校



拡大学院運営協議会の「熟議」で、子どもの活動を地域の大人で見守る活動「たかみず寺子屋」が提案され、見守り隊の方が学習支援を実施した。

学校支援に係る取組

周南市立八代小学校



老人クラブや社会福祉協議会と学校が連携し、米づくりやいきいきサロン校内実施等を定期的・継続的に実施し、生涯学習につなげている。

周南市立周陽中学校



研究授業を実施し、学校運営協議会委員、他教科の教員や授業を受けた生徒も加わったユニットでよりよい授業のあり方について協議している。

周南市立熊毛中学校



地域住民による面接指導を実施し、生徒は面接に必要な所作を学ぶことができた。指導された地域の方々も生徒の態度に成長を感じている。

希望に満ちたコミュニティ・スクール

下松市教育委員会 山口CSコンダクター 白木 克己



多くの方々の御尽力により、市内一斉にコミュニティ・スクール元年を迎えることができました。始まったばかりで大きな成果を実感するには至っていませんが、コミュニティ・スクールは様々な可能性をもっています。

病気のため聴力と視力を失い、話すこともできなくなるが、読み書きを覚えて大学を卒業し、「奇跡の人」と呼ばれたヘレン・ケラー女史は、「希望は人を成功に導く信仰である。希望がなければ何事も成就するものではない」と言っています。誰もが、将来に対して夢や希望を抱くことができるような『希望に満ちたコミュニティ・スクール』に成長してほしいと願っています。

「やまぐち型地域連携教育」の成果

光市教育委員会 山口CSコンダクター 木本 育夫



「やまぐち型地域連携教育」の推進が全県的に進められるようになって2年目となる本年度、多くの学校・地域でその取組が充実してきていると感じる。特に変化を感じるのは、子どもたちがそれぞれの地域に愛着をもち、地域行事に積極的に参加するようになったこと。また、地域の人々の学校に対する意識が変わり、フラットな状態で学校に関わる人が多くなったように感じる。このことは、県が推進している「地域協育ネット」のねらいの一つである、学校と地域が「めざす子ども像」を共有し協働実践しながら、無理なく各学校のCSが進んでいる成果だと思う。CSは、子どもたちの成長にとって大きな役割をはたしている。今後も、各学校のCSの更なる充実に向けて取り組んでいきたい。

地域貢献に係る取組

下松市立公集小学校



地域貢献をめざして、児童80人が公集小「美化ボランティア」を結成し、「末武まつり」で清掃活動を行った。

下松市立花岡小学校



4年生が「花岡ふれあいまつり」に参加し、元気いっぱいの花小ソーランを踊って祭りを盛り上げた。

下松市立末武中学校



文化祭で、地域の伝統芸能「花岡歌舞伎」を、生徒と教員が発表し、地域の伝統的な活動を通して、地域の方とのつながりを深めた。

光市立三輪小学校



クリーン光大作戦では、地域の一員として清掃作業に参加した。地域を美しくすることで、地域への愛着が深まった。

光市立岩田小学校



5年生児童が「地域のために尽くそう」という自らの提案のもとに、総合的な学習の時間に地域の清掃活動を行った。

光市立室積中学校



正月飾りのためのわら打ちやコミュニティ・センター等に飾る門松づくりの手伝いを生徒有志で行った。

周南市立徳山小学校



地域や保護者の方を対象とした「大人の学び」として、音楽、絵画、外国語を実施している。音楽では、大人と子どもが合唱を通してともに学んだ。

周南市立遠石小学校



「大人も読書に関心をもってほしい」との願いから「大人向けのブックトーク」を行い、50名を超える保護者・地域の方が参加された。

周南市立福川南小学校



地域住民を対象にフラワーアレンジ教室を開催した。参加者は、思い思いに作品づくりを行っていく中で、学校への関心とお互いの絆も深めた。

地域貢献に係る取組

周南市立三丘小学校



地元糸あやつり人形浄瑠璃の伝統芸能を地域の三和会や中学校のボランティアの協力を得て取り組み、参観日等で披露した。

周南市立大河内小学校



子どもたちと地域の方と一緒に「ピカピカ大作戦」と銘打った通学路のゴミ拾いを行うことで、環境美化の意識が高まった。

周南市立鹿野小学校、鹿野中学校



地域の町おこし行事「鹿野市」にボランティアとして、小中学生が参加し、地域の活性化につなげている。

周南市住吉中学校



学校NAKA美術館プロジェクトのひとつ、コミスク授業として、地域の方、小中保護者の方を対象に、1年生と「和同開珎」を作る体験型授業を行った。

周南市立桜田中学校



桜田地区総合防災訓練に参加し、高齢者の避難援助や避難所の設営など地域の一員として生徒が自分たちにできることを考え、取り組んだ。

周南市立岐陽中学校



地域清掃活動や地区防災訓練、子育てボランティアなど、校区内の様々な団体からボランティアの要請があり、毎回多くの生徒が支援参加している。

コミュニティ・スクールで“元気で心豊かな人を育むまちづくり”

周南市教育委員会 山口CSコンダクター 布施 安浩

周南市は、のびのびと居心地良く暮らせるまちのイメージから **周南市** というロゴを公表しました。自然体で、多くの方々にこれまで以上にコミュニティ・スクールに関わっていただくことで、子どもたちや周りの大人たちにとって、元気で心豊になれる環境をつくっていく街づくりの象徴と捉えることができます。

コミュニティ・スクールを核としながら、学校と地域の横のつながり、小学校と中学校の縦のつながりを紡ぎ合わせ、目標やビジョンを共有し、9年間の義務教育を通して子どもたちを育む「地域と“共に”ある学校」づくりに「しゅうニャン市」は取り組み続けます。



学校(園)が連携した取組や地域ぐるみの取組

下松市立下松小学校、
豊井小学校、下松中学校



気持ちのよいあいさつをしようとする態度を育てるために、小中合同のあいさつ運動に、保護者や地域の方も参加した。

下松市立下松中学校、
慈光幼稚園



中学1年生が、津波の2次避難先である高台の下松公園に、近隣の慈光幼稚園の園児を誘導して安全に避難する訓練を行った。

下松市立久保小学校、
東陽小学校、久保中学校



たくましい久保っ子を育てる会主催の「放課後子ども教室」の指導補助員として、中学生ボランティアが参加し、小学生や地域の方々と交流を深めた。

光市立島田小学校、上島田小学校、
三井小学校、周防小学校、島田中学校



福島復興支援活動に、中学校区の4小1中では取り組んだ。島田中学校では、学校支援ボランティアバンクの方と一しょに植え、種採りを行った。

光市立光井中学校、
光井小学校



地域の「敬老のつどい」に、地域住民の指導のもと、中学校生徒が準備、運営に取り組み、児童生徒が出演している。

光市立大和中学校、
三輪小学校



地域が連携して、認知症高齢者徘徊模擬訓練を実施した。困っている認知症や高齢者などに会ったときに相手の人権を尊重しながら、どのように対応するかを実践的に学んだ。

周南市立和田小学校、
和田中学校



和田地域全世帯の資源物回収作業を実施した。また、老人会の協力で環境整備活動も並行して実施して、児童生徒・保護者・地域が一体となる取組となった。

周南市立戸田小学校



老人会の協力のもと、4年生が菊作りに取り組んだ。4月に苗を植え、鉢替え、支柱づくりを行い、11月に地域の皆様に披露した。

周南市立岐山小学校



昼休みの「ひまわりタイム」では、子どもたちが地域の方と遊びながらふるさとのよさを感じたり、ふれあいを楽しんだりしている。

学校(園)が連携した取組や地域ぐるみの取組

周南市立桜木小学校



桜木地区とタイアップし、地域住民も対象とした人権教育講演会を開催した。思いやりの心をもつことの大切さを学ぶ機会となった。

周南市立勝間小学校



地域の祭りに5年生が「野菜マーケット」を出店した。地域の協力のもと、子ども自らが仕入れ・販売等を行い、体験を通して多くのことを学んだ。

周南市立徳山小学校、岐山小学校、遠石小学校、岐陽中学校



生徒が校区3小学校や人通りの多い道路に出かけ、あいさつ運動を実施している。地域の方や保護者の方も毎回参加され、地域をあげての運動に発展しつつある。

周南市立須々万中学校



地域と連携して避難所開設・初期運営を体験した。避難してきた地域の方々を中学生が誘導するなど、役割分担をして練習に臨んだ。

周南市立福川小学校、福川南小学校、福川中学校



小学校6年生と中学校全生徒による「小中合同防災訓練」に地域の方にもご参加いただき、煙霧体験と災害時の給水体験を実施した。

周南市立高水小学校、熊毛中学校、熊毛北高校



「つながろう ふるさと大好き 熊毛っ子」の具現化の取組として、小中高校生と地域住民が集まり、花壇整備を行った。

「協育ネット」まさにネットワークこそ力

和田中学校区地域協育ネット 統括コーディネーター 平野 忠彦



「やまぐち型地域連携教育」推進のもと、県内においてコミスクの形は定着してきました。和田地区は小・中学校が一つのコミスク「和(なごみ)ネット」として活動していますが、形ではなく実質的な活動が生まれたのは2年前、形としての組織に主体的意識が生まれてからだと思います。現在「学力向上」、「健康安全」、「心の教育」の3部会がありますが、それぞれ3人の部長が学校とつながり、地域の人(サポーター)とつながり、学校の教育方針に沿った活動を主体的にリードしています。コミスク組織の世代交代等、これからの課題はいろいろありますが、「子どもを地域の核として育てていこう」という思いの中で、熱き人のネットワークがより強く結ばれ広がれば、スクール・コミュニティとしての役割も果たせると考えています。